

ロータリー米山記念奨学事業の基礎知識

— 奨学金制度編 —

★ ロータリー米山記念奨学会について

公益財団法人ロータリー米山記念奨学会は、日本のロータリーが協同で運営する奨学財団であり、財源は主に会員の寄付で成り立っています。日本独自のプログラムですが、国際ロータリー（R I）からも国内全34地区の多地区合同活動として認められています。1967年に財団法人設立、2012年1月には公益財団法人に移行しました。

★ 支援の対象は外国人留学生

事業開始から一貫して、日本の大学・大学院などで学ぶ外国人留学生を対象にしています。2019年4月採用の奨学生数は全国で869人と、外国人留学生を対象とした民間の奨学金では国内最大規模です。これまでに累計で、世界129の国と地域からの留学生2万1,024人を支援しています（2019年7月1日現在）。

★ 世界の平和を願って始まった国際奨学事業

事業の始まりは1952年、東京ロータリークラブ（RC）の当時の会長、古澤丈作氏によってつくられた、海外、特にアジア諸国から優秀な学生を日本へ招き、奨学支援する「米山基金」の構想にさかのぼります。

「米山」とは、「日本のロータリーの父」と呼ばれた米山梅吉氏（1868～1946）のことで、タイから初めて奨学生を迎えたのは2年後の1954年。以降は、海外からの招へいではなく、在日留学生への支援に方針を変え、東京RCの単独事業から全国の地区に拡大・発展しました。留学生数の増加に伴い、ロータリー所在国に限らず世界に門戸を開くなど、時代とともに変化しながらも、ロータリアンと外国人留学生との交流を通じて国際親善と世界の平和に寄与する、という事業の目的を今日まで貫いてきました。

★ 最大の特徴は世話クラブ・カウンセラー制度

その目的を実現するための制度が「世話クラブ・カウンセラー制度」です。米山奨学生には、地域のロータリークラブから「世話クラブ」が選ばれ、会員の一人が「カ

ウンセラー」となって、日常の相談相手や交流の橋渡し役となります。奨学生は毎月1回以上、世話クラブの例会や奉仕活動に参加し、大学生生活では得られない出会いと交流を通じて、日本の心、ロータリーの心を学びます。会員にとっても、多様な文化や価値観への理解を広げる機会になっています。

★ 学友の集い、モンゴルの次は台北へ

米山奨学生は、奨学期間後に「米山学友」となります。2014年1月のR I理事会で「学友」の定義が拡大され、米山学友も「ロータリー学友」となりました。米山学友の同窓会組織「米山学友会」は現在、日本国内に33、海外に9つあり、学友同士の親睦にとどまらず、日本と母国の奉仕プロジェクトを仲立ちしたり、独自の奉仕活動を実施したり、他の学友会と交流するなど、ロータリーの世界に根を張り、ネットワークを広げています。その一環として、世界各地の米山学友が集う「絆 in モンゴル」が今年7月、モンゴルの首都ウランバートルで開催されました。次回は2021年、R I国際大会が行われる台湾・台北市で、開催に向けた企画が進められています。

なお、今年度の「よねやまだより」では、米山月間特集となる10月号で「絆 in モンゴル」の報告を、11月号からは昨年度に続き、各米山学友会の活動を紹介する「CLOSE UP! 学友会」シリーズをお届けします。

★ 奨学金の種類と特徴（2019年4月～20年3月）

ロータリー米山記念奨学金一覧	月額	期間	募集システム	人数
1. 学部課程（YU）	10万円	最長2年	指定校推薦	812人
2. 修士課程（YM）	14万円			
3. 博士課程（YD）	14万円			
4. 地区奨励	7万円/ ※10万円	1年/ ※最長2年	世話クラブ推薦	17人
5. クラブ支援	14万円	6カ月/ 1年		
6. 海外応募者対象	10万円（学部生） 14万円（大学院生）	2年	公募	27人
7. 海外学友会推薦	14万円（渡航・住居費別）	1年	海外学友会推薦	4人

※高専専攻科、専修学校高度専門士課程の場合

「よねやまだより」では、毎年8～9月号に“基礎知識”を掲載しています。この2号を読めば「米山とは何か」「特徴は?」「寄付はどのように使われているか」など基本的な情報が分かります。毎年好評をいただいているシリーズです。新会員の方はもちろん、ベテラン会員の方にもぜひ一読いただき、“日本のロータリーの誇り”と呼ばれるこの米山記念奨学事業について、最新情報を知っていただければと思います。初回の今月は「奨学金制度編」、来月は「寄付金・財政編」をお届けします。



■ 学部課程・修士課程・博士課程奨学金

—— 大学・大学院生対象のプログラム

大学・大学院の正規留学生が対象で、採用者の9割以上を占めます。2019学年度は学部319人、修士269人、博士224人が採用されました。各地区の米山記念奨学委員会が指定校を定め、推薦された学生を面接選考して合格者を決定します。奨学生が世話クラブに通える範囲内で、地区外の学校も指定校にできます。

■ 地区奨励奨学金

—— 大学・大学院以外の教育機関を対象とするプログラム

地区の裁量によって、短大・高専・専修学校などを指定校にし、在籍する留学生を支援できる制度です。学部相当の高専専攻科、専修学校高度専門士課程を除き、奨学金額が修士・博士課程の半額である代わりに、1人の枠につき2人を採用できます。近隣に大学がない地域にも世話クラブを広げることによって交流の機会が広がり、事業への理解を得られる効果が期待されます。2019学年度は7地区で17人が採用されました。

■ クラブ支援奨学金

—— 現役奨学生のための期間延長プログラム

現役奨学生の世話クラブが、奨学期間を延長して支援したい場合に適用されるプログラムで、6カ月または1年の選択制です。延長期間の奨学金の半額を、世話クラブが負担します。博士号取得見込者のほか、上級課程へ進学する現役奨学生が対象です。ただし、延長によって地区の新規採用人数が減るため、採用を控える地区もあります。

■ 海外応募者対象奨学金

—— 海外在住の日本留学希望者が応募できる制度

日本での留学先が決まっている外国人が、海外から個人で応募できるプログラムです。最も困難を伴う来日初年度から支援でき、奨学期間は2年間です。在日留学生からの選考ではないため、留学生数の多い国に偏らず、国籍や人材の多様化が進められると期待されています。各地区は割り当て数の枠外で1人を採用できます。応募要件として基礎レベルの日本語能力が求められますが、過去に勉学を目的とした日本滞在歴のある人は応募できません。ただし、2020学年度採用から、ロータリーの青少年交換での日本滞在歴は例外として認められます。

■ 海外学友会推薦奨学金

—— 海外学友会との協同プログラム

海外の米山学友会が、現地の日本留学希望者を募集・選考し、推薦するプログラムです。2020学年度は前年度同様、台湾に2人、韓国に1人の推薦枠が与えられます。既に博士号を保持し、大学などに勤務する教授・上級研究者を対象に、日本での研究活動を1年間支援する研究助成プログラムです。この制度は、海外学友会の活性化や現地での米山奨学金の認知度向上に役立っています。

ロータリー米山記念奨学会事務局

米山記念奨学事業、「よねやまだより」についてのご意見・お問い合わせは、(公財)米山記念奨学会まで。

Tel. 03-3434-8681 Fax. 03-3578-8281

Eメール: mail@rotary-yoneyama.or.jp

ウェブサイト: www.rotary-yoneyama.or.jp

『50周年記念誌』を読めば、あなたも“よねやま通”に!

財団設立50周年を記念して2017年に刊行した『ロータリー米山記念奨学会50年のあゆみ』(1冊1,800円)は、米山記念奨学事業を理解するのに最高の参考書です。過去50年間の事業から重要な出来事を抽出し、各年代のトピックスを分かりやすくまとめました。例えば、「米山梅吉さんとこの事業の関係は?」「支援する留学生の対象を全ての国・地域に広げたのはいつから?」「大学から応募者を推薦してもらった現在の制度はどのように始まったの?」などなど。これを読めば“よねやま”の全てが分かります。地区やクラブの米山記念奨学委員会の皆さまには必携の資料です。まだお持ちでない方は、ぜひご注文ください。お申し込みは、上記の当会ウェブサイト、または電話、ファクスにて。

